

L-98

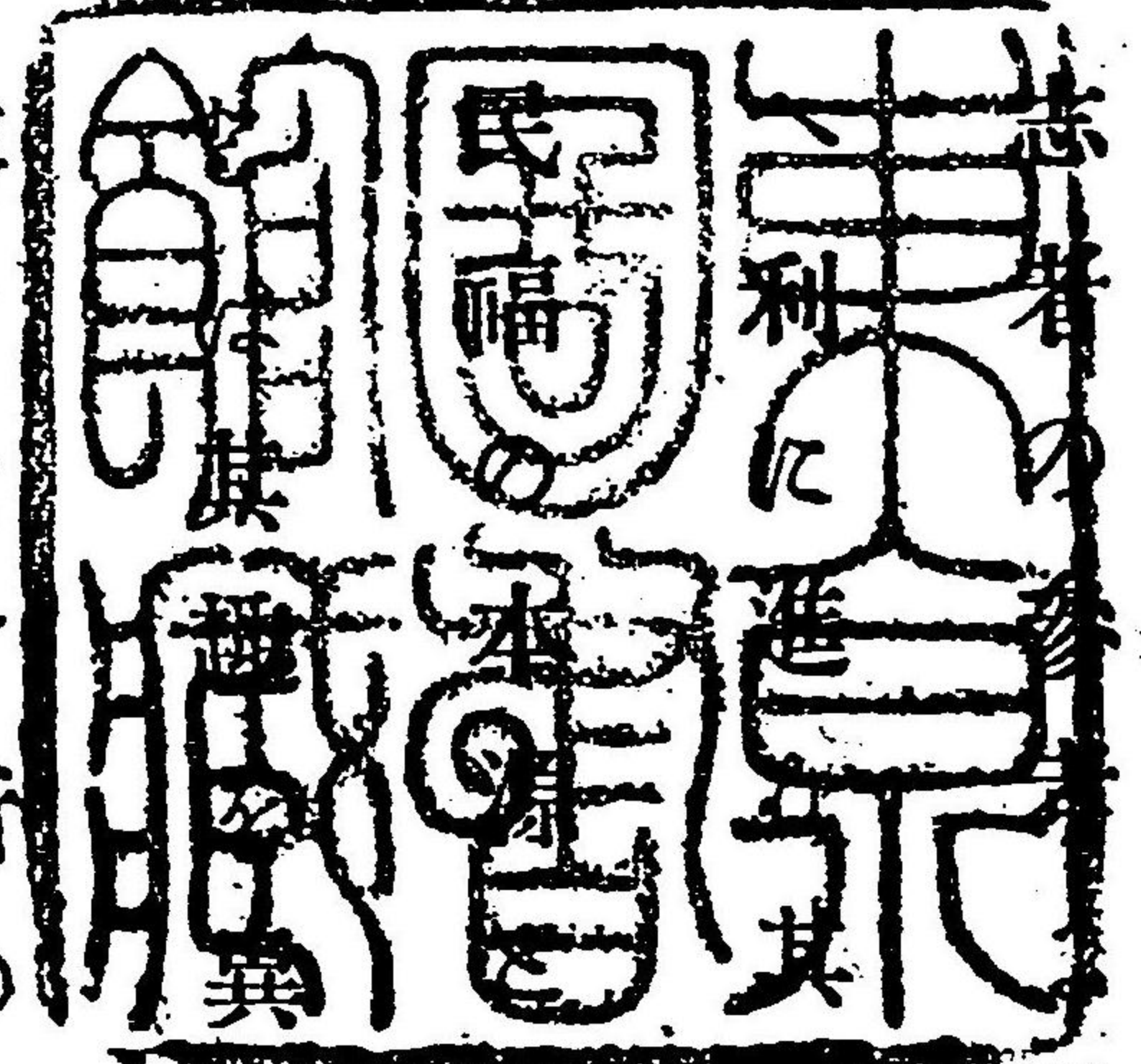
101
78

地方の急務

儲言

特48
612

本書者上流社會の今た知る能ざる地方民間の内
め利害得失を實地に於て探檢し其委細を記して以て各有



志者の参事
利に進其
民福の本
館其種
供と一つに今た未開なる人々の世事を辨
發達心を引起すに導く策を設ると共に國利
する所を説きたる者よて從來有來りの書類
に於て惣て六ヶ敷長文と言語を省き眞此必
要をなす所のみを記し又何人にも容り易く素人文句の如

く著者有は大方の識者之宜敷之と諒察すべし

明治二十六年二月

編者識

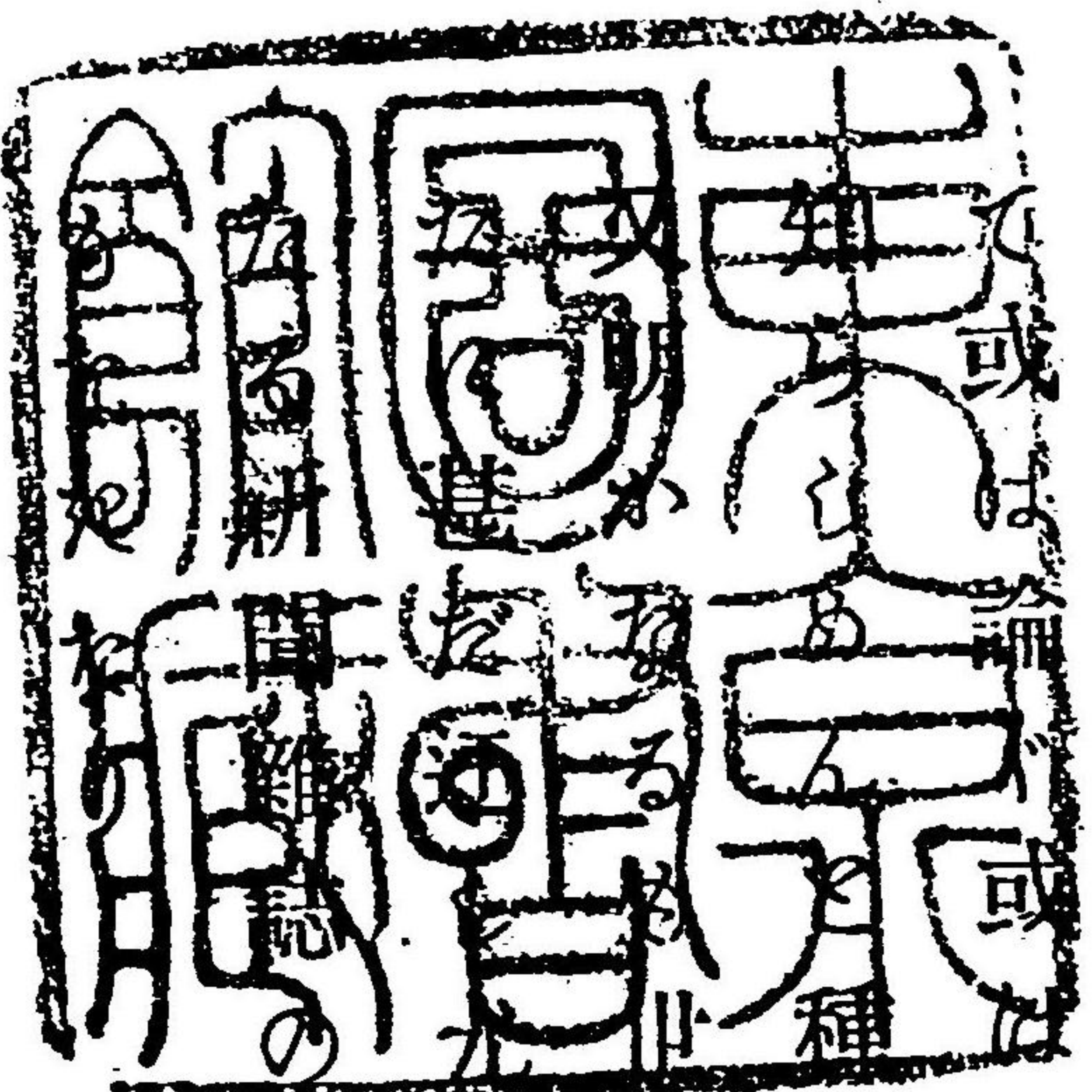
地方の急務

目次

- | | |
|--------|--------|
| 有志者の望む | 家督相續 |
| 地所の不殖路 | 教育及び目的 |
| 場所と作向き | 古風の弊害 |
| 位地を人戸 | 結婚法改良談 |
| 時勢の變化 | 鏑洗 |
| 海上の利害 | 詰局 |
| 産物の賣方 | |
| 金満家に注意 | |

有志者に望む

國の文明は万民の幸福民家の富の國の榮ふて日々開明に進むと雖も
重なる國の地形と政す地方の同一つ進まざるに誠に如何の至り其
開明と富を計らんとするに即ち識者政治家の最も急務とする所に
容り易き書を著して世人の知識發達を計り尙經濟と
々相進で共の國家に盡すと雖今た多くは文字を闇く
事に心を注ぐ者少なり第一我業となす所の利害得失
も玉磨かざれば光なきの同理にて當時開化の案内者
必要を知る者今た稀なる位なれば世事を辨むべき筈



此未開なる人々を開化に導き業務の利害經濟の得失夫々明かになさ
んとするに是全く地方有志者の義務と盡力し依者なり有志者の今一
歩を進め其先道者たらん事を務め第一着に利益上を人心の引立所
に注目して利より進んで至然に事を辨へるの策を採り一つの特別會
を開き(然と町村會に附するとともに)一般に民と會し就業の利害得失を始

先世事の万般を説き知らしめ時々又會して諸民の共談に進む事を計らば至然人心發達して世事を辨へ利に進む事小兒の學業に進むより一層速るならん事少くも疑ふ足らざるなり有志者宜敷注意して我國民を無益に日月を送す勿れ

地所此不殖路

瀛車瀛舟馬車人力に至る迄唯贅澤の流行者でなく欠べからざる運輸機なる事は世人も知らるゝ通じて昔の運輸と其差有よと何に譬ん實に天地の違なり從て又其間よを生きる利害と幾莫なるや計り難き農家就業の經濟に於けるも地所を殖路に所有して殖路其業に従事すると又不殖路に所有して空お時間を費すといふ少ながらざる得失あらん(尤も有力家は何れの方に所有するも是は小作人及び通常家注意するのみ然るも功者なる人々者不殖と殖と賣買と無益の勞へせざるべければとも多くは今だ業務お迂く是と先祖より傳來の地とか或は賣買する事をきらい一國終の時勢なる天保時代の心得よて利害得失の辨まかく今日へ東の達田に明日は南の畑に行て僅か半日を掛らざる位

いの仕事に田畑を不殖に有する爲空しく其日を費すのみか平日後れ勝となり重なる植付の水を失い又は種蒔のしめりを失を杯其損失の積る所實に莫大の者にして一家の立と倒れるとは其得失よを生ずる飛らん

是等の人は早く其邊に注意して相互よ其便を計を掛る弊害を洗はん事經濟と最も急務とする所なり要するに今一町歩を作れるも又五反歩を作る人も同ト家内ふての働とすれば一方の人々へ年々半年宛の日月を無益の事に費す同理是を全國農民の總數より見る時へ不經濟者先づ半數位いは有と見ても可ならんが一家の得失は論を待す國益上容易からざる差違あらん前編よも陳べる如く第一瀛車を始として世人に無益の勞をなさせせ空に日月を費さざる様諸機相應よ國家の爲を計ると雖も全國人口は多數を有する農家其經濟に愚かなく進んで富を重ねては全國萬歳とい言難かるべし

場所と作向き

所替れば品替るの譬に違なき馬子一人して牛馬四五頭を引地も有は

なを脊負て運ぶ地も有り是等の多く場所と産物の品よりて夫の異にする者ならんが東西南北何れに出るにも其賣先の遠き地を多く運送費に引落され手を得る所甚だ少なり日本は元より山間多く運輸の不便少なからせ

此遠隅の地方人は早く其作向きに注意して多額の運送費を要せざる養蠶業なり茶業なり何れあつても土地相當の作を撰び無益の費用を
入れざる事尤も今日の得策なり

位地と人戸

土地廣ければ業多く人多ければ業少なく或は行商又は出稼ぎと種々生活へ計らんとするも夫は當前に辨へなき今は昔と事替り居なからあつて万事意の如く速達すれば従前の如き我地産出の者を他國迄運び其品持て出来たる者を又買來りて商を採らあまを得策とも思へざれば位地相當の事業を起し出来得る丈けの其産地にて製造なき無益の運搬をおとすて製品となしたる上廣く賣出を以て得策とす尤も産地にて製する能はざる品も有べければ夫は大略荷嵩の細き物なり

らん

又小商人の旅商採の隨分改良を可とする者多ければ小商家宜敷注意して狭き心を持つ勿き

時勢は變化

世の變化程敵對難きなきものにて淵瀨と變る譬の如く陸より鉄道全國に渡り海に瀛舟の競争をけし從て又賃金を安價なればおら

往來採する者至て少なと爲に東海道を始として各地とも道中筋の宿場に於ける淋しさの實に氣に毒尤も廢藩置縣にて一變ある上の再變化なきは誠に當惑の次第ならんされども是全時勢のおせる所にて今更悔ても其詮なければ早く殘心を一洗し業務の變行に着手せん事憂の中の得策なり

要するに家宅に廣きに從ては人口も又多ければ第一適當の業となす者は養蠶の外ならず然るに此地方は田畑少なき方なれば先づ何れにても製造業に限るべし貿易は日々益々盛んにて從來の本邦人にして直輸出をなす者至て少なを多くに在留外國商人の手を経る者なり

が追々と其趣を替へ直輸出をなすもの續々顯れ利益々商勢を廣めんとする景況なれば利益上もまた推て知るべし

尤も手なれざる業を起さんとするに於てハ一時の困難ハ有べけれど夫れ相當の策を設け其法方を慥かむれば決して意の如く達せざる事はなき者にて今其手本とする者は他ならざ即ち都會なり都會にハ又其師となる者隨分有は土地に迎へて學ぶとするか何を以てても其法方の立方も種々色々有者なれば早く此邊に注目して時勢變化の憂を洗ひ昔に増る榮を計り益々富を重ねん事豈難きにもあらざる也

海上此利害

陸地運輸の便進むに付ては海上運輸の形勢に一大響況を來たす事是免れざる所なるに小瀛舟次第に増加するハ日本形舟の全不便利なる所よる此くハ起れる者ならん今日日本形舟の内必要とする者は上荷通舟小廻り遊舟の如き港内の便利川廻りの小形者に限るのみ尙漁舟の部に於ても内海業は先安心としても可ならんが万里外に扣へたる近きハ紀州の漕難の如く危険極まる場所に於ては何れか宜き改良法の有

べき筈なきを必ず宜き策略の有者ならん

且大形舟の弊害は第一漕難の憂多く付ては多くの金品を空しく海底に失をのこか又と得難き人命を失す尙其者を頼とする家内の困難一方ならず又無難に其業を渡るとしても意の如く追手の風計りを得て早着する事甚だ稀なり多くハ風待鹽待の爲彼の地に五日此地に十日と空しく毛海上ハ貴重の月日を費すのこ尤も中形舟は浦々の小廻りハ必要なきハも限らざれども僅か眼前の所にも風惡しければ渡るを得ざれば唯不自由と言の外取

昔と違い今日の如く便利極る時勢に會て居り取ら此く不自由取る者を以て危き海上を營まんとするハ誠に愚か取る次第ならざや是一家此利害無論一國の爲大取る得失有者取れば日本形舟所有者は宜敷其邊に注意して其目的を變行するをも又は一大瀛舟社を起し廣く海外の航路を取さんか或は帆前船に改造せんか何れにして宜取法行れあらん物を

産物の賣方

作家産出の賣物は普通上の賣物と違ひ言はゞ天道任せにて我意の如く取す能はざるのみならず年に二回か三回の容易に得難き品物にて賣は賣切後と一年せを待たれば其品を見る能はざる事ハ世人も知らるゝ通りにて全く貴重の賣物なり

然るに前後此辨もなく其出來方に見込を附け迂と先賣などをして後にて後悔する者多し又平常の賣方にては買ふ愚か取る考へにて功者取る者甚だ稀なり此賣方の可とする所ハ第一内外の景況を知り其出來秋の模様より深く内地の商勢を考へ賣出を以て至當となすされども農家の常として然る掛引は今容易く出來得べくもあしとすれば平日業務も怠りなく内を富強に構へ置賣急ぎをせざるを以て農家一般の勸要とせん

然るども其心懸し怠らざれば何日か其意を達する者なり今其案内者とす者ハ他取らば即ち新聞なり是を怠りなく讀くすきは前編にも説く如く至然内外の景外を知り其賣方の功者になる此みでなく第一非向きの當否を知るなり是ハ今委悉く書立る程の者よもなき様なきとも今た辨へ居る人至て少く又農家に新聞の要なき杯言へる人取きよも限らざれども是大變の義違なり民家至らざる所なく新聞雜誌を讀くするに至らざれば我全國の文明開化といわれざるなり尙國家此富を重ぬるゝ難し

金満家に注意

金満家も種々有て金に便はれる人も有は又自在に便う人も有る(但し散財にあらざれば)又番をする人も有り何れにしても金世界金程結構なる者はなし然るゝ金働ても人働はれても大丈夫と言見構よて自由自在に運動させ無益に遊ばせる事なければ流れる水は腐敗ぬ同理で金働て金を儲け至然と太るゝ世人も知らるゝ通りなるが番をする程世に無益無心經の者なきなり溜込主儀の一方にて唯仕納置ばかりにても或は盜難の憂も有り又親の心子知らざにて其相續をなすゝ至り無闇し蒔散す事も有は宜敷金此運動方ハ怠らざる事勸要なり且又何事よも心配のみして何一つ儲けもせざり又利益を見る所も取く只有金を便減にする如きと或は災々難し逢不時の入用續く時は寶を抱て居

ながら何日か困難の淵に落入るなり尙又昔の要心深き人は金を地中に隠し置杯隅々聞知る所なりしむ若し相續者知らざる時ハ空しくも寶を地中に失と同理此の如き人今た地方にはなきも限らず是全昔ハ兎も角今日にて心未開のなす所なり

當時金満家の世見通上となす所は公債或は慥か成株券銀行利子又ハ貯金抵當貸地所買入と種々廻し方は有者なるが夫と當前の事に去て先有力者の義務としては自ら其先發者となり位地相當の便法を設け益々共同の益を計り共ニ其榮を重ねん事道德上の本務なり然るを無法にも又無人情にも困難者なければ金有家の富重ね難と小家富ては質屋立を杯愚考する人なりとも限らず是等の人は實ハ未開極まる世界知らぬの心の狭き人とや言はん

家督相續

家督相續の利害程一家の大事はなき物にて老て非常の困難に逢も若きが立身を誤るも一つは此弊による者ならんが多くは若隱居をなす喜ぶ又早く其籍を繼を以て喜ぶとも之大變の心得違なり早く隱居

取すに於て達者の體を無益ニ費すのみならず早く身代の自由となるより何か相續者氣儘を起し遂ニ一家を誤まるなり附て陳べんは地所家屋の賣買及び書入等をなすに於て一人其手續きどなす如きは甚た不安心の至りなり是等の事をなす時は或は親なり兄弟なり又親籍あり同行にて其手續をなすを宜しとす此くする時ハ後にて後悔する事起らぬ家内の安全を保つ事全く明かとする所取り此同行手續き方に附ては必き宜法方の有者ならん且家督相續ニ附て生じる其弊害を洗はんとするには年相應の稼ぎをなし體相當の運動を取し氣力を落さず長く其戸主の任を持し以て長命を計るに於ては其内相續者世事を辨へ從て又妻子を設け年を重ね至然經檢に富事論を待た然る時其相續を成すに於ては第一老ての不幸福若く若死の誤る事も取く益々家運を盛大ニ榮續する事實に證する所なり

教育及び目的

教育と目的は世人の知らるゝ通りにて何れも大節の者なるが當時は

小兒のみに限らず諸人習心の必要あり世上は日を追て開明し進み從て時事其業向きに變行を來せは目的も又同一なり且青年の目的を注意の上にも注意を加へ深く未來を考むべきあり要するは親目には子は最負の勝者ありは是を慥かめんとするに於ては先づ親籍か又は他人の信友は其目的の意見を求む十分入念の上は於て其目的とする所を學ぶに限る者なり

是を迂濶にする時は後よて後悔する事多し土地離れある遠國杯よて若し目的を誤りて其望を達せざる時は古郷に歸るも面目惡く遂は其身を誤り至り果は親兄弟の面て汚すに至るなり尙人によりて見る顯もなき迄に落果て貴重の體を塵芥の如くなす者隨分多し又目的は相當なるも資本に乏しく知己の無遂し望を達する能はる前者の如く成者有女子よても又同じ若し誤りの出來たる時の芝居に演ずる袖萩を見る様事になる者も隨分有は老若男女共々に宜るく注意を加へぬき取り

古風の弊害

新古物に依りて信ぜるなり當時の風俗家形の如し其拙はざるも又興有然るに例或の古風は於ける先正月を始として三、五、七、九、十二月と數役月の有内にも所變れば品變る宗旨督せば家法迄も種々其形を異にする此内改良を可とするも有又は全廢しぬるも有らんが第一其害を招く者へ新舊月日の一事なり證據ありの約定事等に至りては兩者の間より隨分間違を生ずる事有時としては其爲口論仲違ひ杯する事も多し尤も一方の唱へることに改たる地方もあらんが今た奇麗は改らざる方多れば早く何れも舊弊は奇麗を洗いぬき物にこそ

結婚法改良談

結婚程世に大役の者は取く其身代の盛衰は(男女を問はず)一つも入縁者の素性と性質とに寄事は世人も知るゝ通れるが此大役を迂濶にして若し居合の惡しは爲離縁にでも成時の費用も入れ損にて別るきは赤の他人並の他人より却て惡しく時としては其爲訴訟事杯起ることも隨分多し

今中等以下の模様を見るに婚禮式の諸費用の身代不相應の入れ方多

く一縁談を飛さんとするには中々一年や二年位の心懸にてなす能は
 ぎ時機に依りては其費に當る金策は爲所有の田畑を質入或は賣杯し
 て入費を補ふ方も有らん此を容易にらざる心配にて結婚の式の揚る
 として毛入縁後にて家法に合ぬか舅に當りが宜くないか又夫婦の
 居合惡しき遂には出入を生きて事随分世見も少なからんが若し不幸
 にして一度ならざ二三度も懸る入事の續々時少し位は身代は爲に
 空しく失を飛らん實に縁談に於ける弊害の一家倒衰の元と毛言はん
 か

是は上流社會にても同トにて夫れ相應の費用も入出入があれは惣方
 の名汚又媒人の俗として行ぬ先から長居の出来ぬ事大丈夫知れ切て
 居る者にては媒人の面立も十日でも五日でも一應杯と丸で犬猫か何
 ぞを取持如き様子にて無益のさしぎをさして居る向きも随分世見に
 はなきに限らざ然るも夫れも引替て都會の地よては奉公人の手代子
 僧飯焚女を雇せよしても慥かめの爲三日を四日の見合をさせ其後な
 らでは其約を飛さす

僅の奉公人を入るよ此く入念をなす者なるに從來の如く輕がるよ
 く後先の辨も飛く其禮式を揚んとするは誠に愚かなる習慣ならせや
 世人は宜しく注意を加へ早々其改良をなさん事共は肝要とする所也

鏝洗

今だ地方には文字に闇き人多く文字明かならされは世事を知るにも
 難らんかされども文字を知る人にては世には論語讀の論語知らざ
 る言人も有は知らざればとてさのみ心縮する勿れぬとへ文字を知る
 にとて心ろ發達せざる人へ却て知らざる人にも劣るあり且又愚飛
 る人にも聞事出來ざる人はなけれは他人の讀むを聞にいても共談す
 るを聞にいても其心懸有時は至然萬事を心得るなり
 又自身は愚なま六ヶ敷事は聞取る能はせなすを得る杯と愚考する人
 もあらんが夫れ我に我身を鏝する同理如何なる知人識者と雖も見毛
 聞毛せせ學ぶもせせに上達する者一人もあし三歳子の時は皆同ト故
 に生來愚なる人にては見聞に心ろを配る時は至然を心ろ發達をて何
 つか會席杯に於る世事の共談等をなすを得る

兎も角金の世の中なり見取れ聞取れ世事を次第に辨まゆれば第一我
かす所の業に進み無益を洗つて利益を得る詰り金のきらいな人はな
ければ何一事を辨へると皆金なりと心得て少しも怠たること勿き

詰局

以上記すむ如く心ろ富されば寶富を兩者相進んで富まんとするを即
ち共談の益に有なり世人の得て言三人寄ば文珠の知惠の譬の如く共
に談じ共に計り知者其知る所を進で説けは愚者又何日か世事を辨へ
利おひかさされて見聞し進み至然其道お明かなる事手人れ宜き作物お
實入の多れを同一なり
尙又豊年お得たる餘有の物を凶年の償おなす如きでは何日富べくも
思おれぬ誠お心細り事ならずや前編數葉に説く如く平日其意を十分
お注ぎ万事お怠りなきお至れば民家揃て富を重ね國家万歳の聲四方
に起り益々國の勢力を増し兄弟姉妹相進んで共お心意を平らおせん
事本書の保證する所なり

兎も角金の世の中なり見取れ聞取れ世事を次第に辨まゆれば第一我
かす所の業に進み無益を洗つて利益を得る詰り金のきらいな人はな
ければ何一事を辨へるも皆金なりと心得て少しも怠たること勿き

詰局

以上記す如く心ろ富されば寶富を兩者相進んで富まんとするを即
ち共談の益に有なり世人の得て言三人寄り文珠の知恵の譬の如く共
に談じ共に計り知者其知る所を進で説けは愚者又何日か世事を辨へ
利ひひかされて見聞し進み至然其道も明かなる事手人此宜き作物も
實入の多れを同一なり
尚又豊年を得たる餘有の物を凶年の償となす如きでは何日富べくも
思これぞ誠も心細り事ならずや前編敷葉に説く如く平日其意を十分
し注ぎ万事も怠りなきし至れば民家揃て富を重ね國家万歳の聲四方
に起り益々國の勢力を増し兄弟姉妹相進んで共ぶ心意を平らよせん
事本書の保證する所なり

明治廿六年二月七日印刷
全 年二月八日出版

(定價二拾錢)



著者兼
發行者

大分縣平民

能田茂市郎

東京府神田區佐久間町
三丁目二十三番地

印刷者

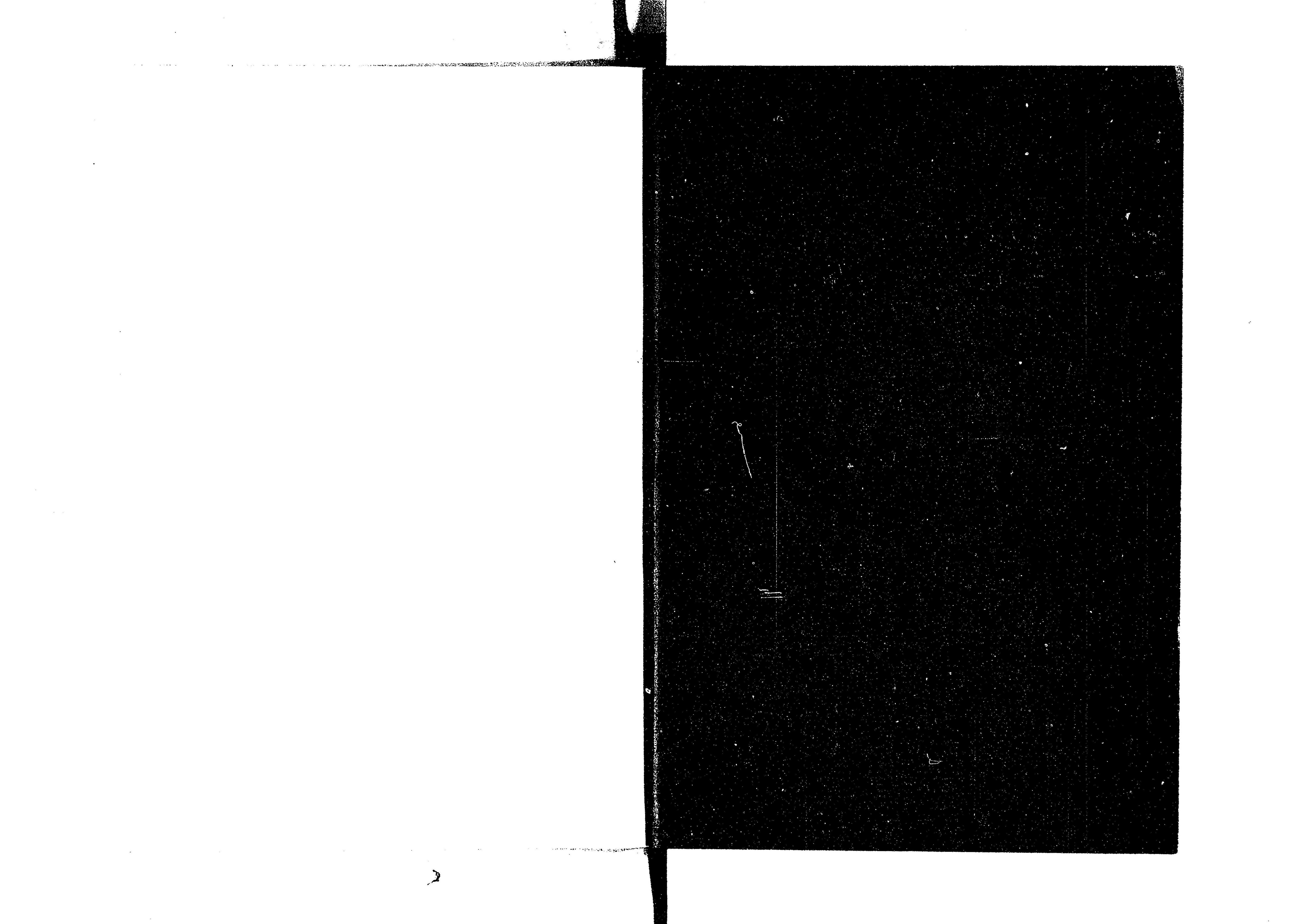
三浦喜久治

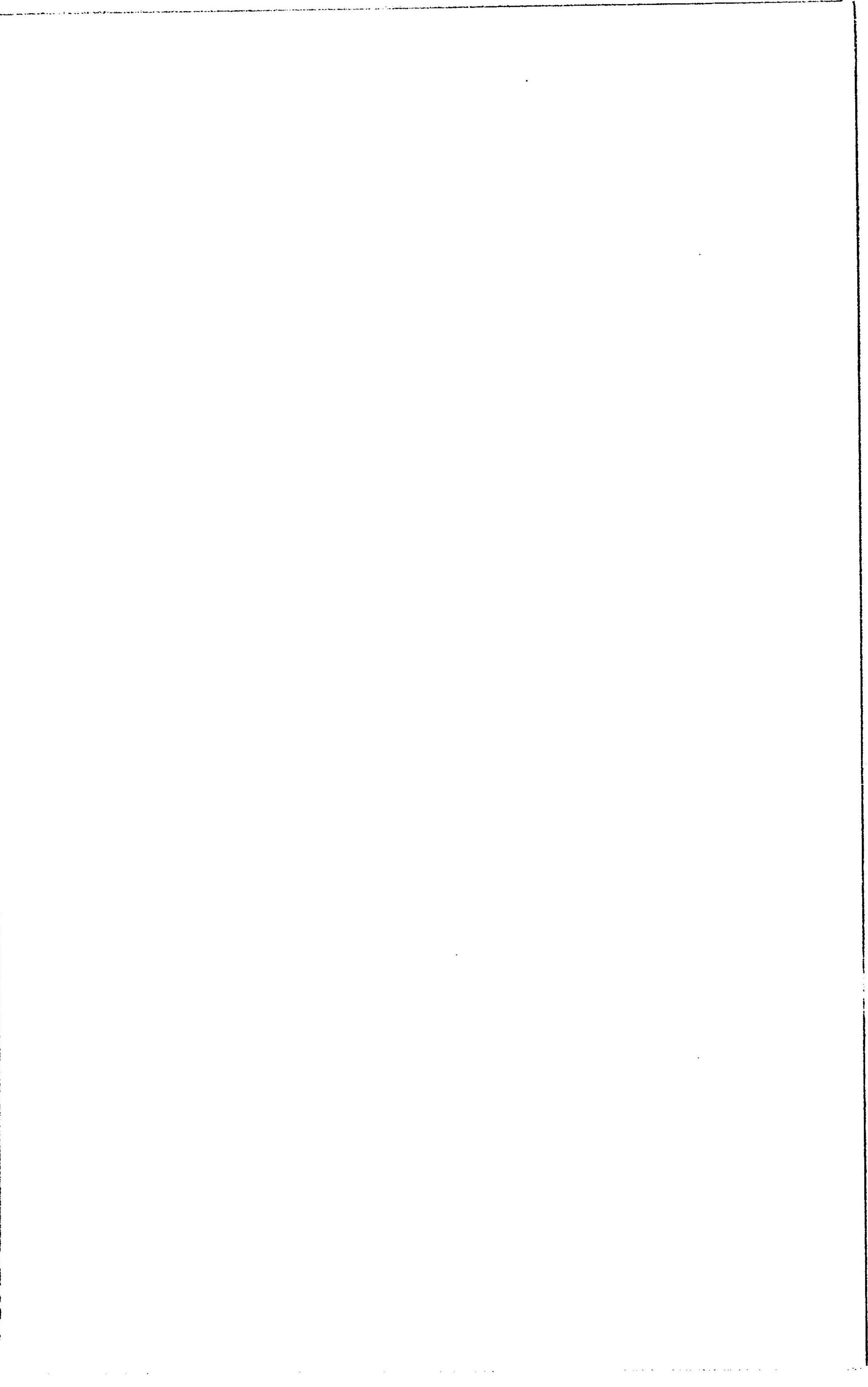
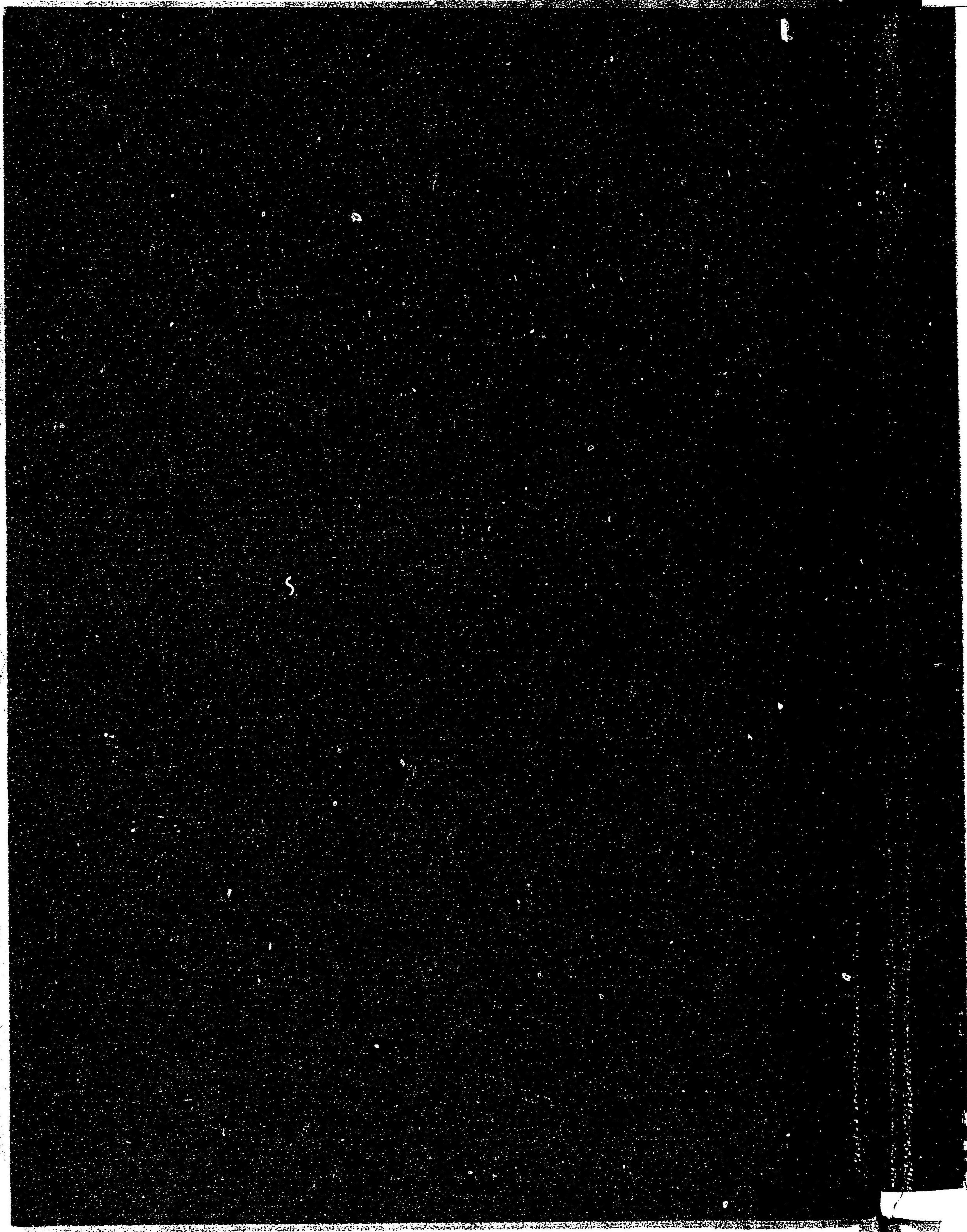
東京府神田區和泉町
一番地

發兌

改良齋

東京府神田區佐久間町
三丁目二十三番地





3
2

地方の急務

国立国会図書館

039650-000-1

特48-612

地方の急務

能田 茂市郎/編

M26.2

BDA-0230



特

6

